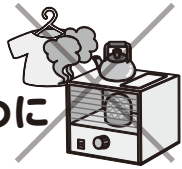


火災をなくすために



「いつでもどこでも火の用心」が大切です。

- 家の周りに燃えやすい物を置かない（置いてあると放火犯に狙われる）
- こんろを使用している時は、そばを離れない
- 灰皿には水を入れ、寝たばこやポイ捨ては絶対にしない
- 電気製品は正しく使用し、電気コードやプラグなどに異常が無いか確認する
- ストープの近くに燃えやすい物を置かない
- ごみ焼きをしない

他にも、火災が起きないように気を付けるべきことが身の回りにないか、今一度確認してみましょう。

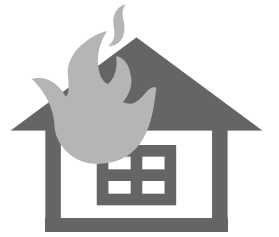
表1 火災発生状況

	平成28年	前年比
火災件数 (件)	54	+4
建物火災	30	0
住宅	18	+2
事業所など	12	-2
車両火災	11	+2
林野火災	0	-1
その他火災	13	+3
野火	5	+1
工作物など	8	+2
死者数 (人)	3	+2
負傷者数 (人)	9	-2

平成28年に市内で発生した火災は54件で、平成27年と比べて4件増加しました。(表1)

1年で54件の火災が発生

火災の原因を知って対策しよう



平成28年中の火災発生状況

問い合わせ とかち広域消防局予防課 (西6南6、☎26・9124)

表2 主な出火原因

順位	出火原因 (件数)
1位	放火 (8件)
2位	こんろ (7件)
3位	たばこ (6件)

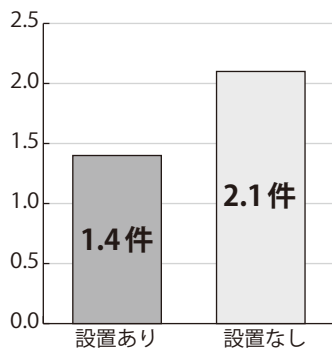
平成28年の出火原因は、放火が1位で、その他は生活に身近なものが上位を占めています。(表2)

住宅用火災警報器設置で死者なし

過去5年間の住宅火災において、住宅用火災警報器の設置状況を比較したところ、設置している世帯では死者が発生していませんが、設置していない世帯では8人が亡くなりました。

また、設置していない世帯は、火災発生リスクが高いことが分かっています。(図)

図 1万世帯当たりの出火件数

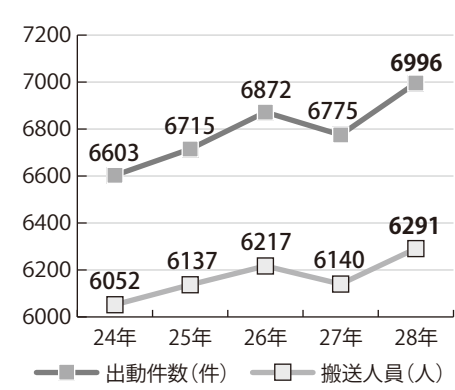


火災からの逃げ遅れを防ぐために設置が義務化されましたが、死者数はもちろん、損害の減少や火災の抑制にもつながっています。

近年、高齢化社会の進展に伴って救急需要が増大し、その影響で救急隊が現場へ到着するまでの時

搬送者の半数以上が軽症者

図1 出動件数・搬送人員



平成28年に帯広消防署の救急車が出動した件数は6996件で、前年に比べて221件増加、搬送した人数も1511人増加の6291人で、いずれも過去最多となりました(図1)。1日当たり約19件出動したことになります。

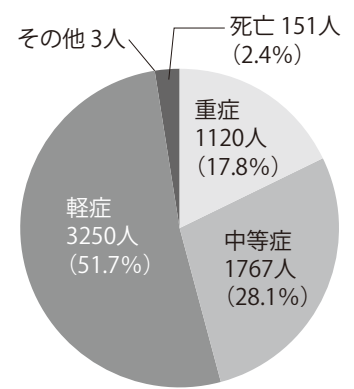
出動件数・搬送人数 いずれも過去最多

平成28年中の救急出動状況



問い合わせ 帯広消防署救急課 (西6南6、☎26・9132)

図2 搬送者の程度別割合



間も遅くなっています。また、平成28年に救急車で搬送された人のうち、約52パーセントは入院を必要としない軽症者でした。(図2)

休日や夜間などの医療機関を知りたいときは

※携帯電話などの電話帳に登録しておくとお安心です

帯広市急病テレホンセンター

☎26・1099

北海道救急医療情報案内センター

☎0120・20・8699

携帯電話からは

☎011・221・8699

こんなときは迷わず119番
反応や呼吸がない、顔色が悪く呼吸が弱い、突然の激しい頭痛や胸痛を訴えているなどの状態は、生命に危険が及んでいる可能性があります。ためらわずに119番通報してください。

軽症者の中には、「病院までの交通手段がない」「どこの医療機関を受診すればいいかわからない」などの理由で、救急車を要請する事例もありました。
救急車や救急医療には限りがあります。緊急性のない出動が増えると、本当に救急車を必要としている人への対応が遅れ、助かる命を救えなくなる可能性があります。命を救うためには、皆さんの理解と協力が重要です。症状が軽いうちに、通常の診療時間内で早めに病院を受診するように心掛けましょう。

厳しい寒さが続いた十勝の冬がようやく終わりを告げ、春の息吹を感じる季節を迎えました。
新年度が始まる4月は、学校や家庭、仕事など、これまでと違う環境のもとで、大きな夢を胸に抱いて、新たなスタートを切った方も多いのではないのでしょうか。
ところで、皆さんの「夢」は何でしょうか。希望の学校や会社、憧れの職業、行きたい場所に行くことや欲しいものを手に入れることなど、既に存在していることの中に夢がある場合が多いと思いますが、今はまだ無い、実現できていない未知の世界を創り出すこと。これもまた夢の一つだと思います。
未知の世界を、ここ十勝で創れないか。2月下旬、100人の熱き大人たちが集い、十勝の未来像やそれを実現するためのユニークなプロジェクトを描く「十勝ドリームマップ会議」が市内で開催

されました。十勝で新たな「しごと」の創出を目指す意欲あふれる地元の実業者たちと、全国各地の革新的な経営者など、異なる分野の個性的な人材たちが参加し、お互いの夢を語り合い、白熱した議論を交わしながら、長さ20メートルのホワイトボードに、宇宙関連産業やアウトドアなど、十勝の資源を活用したアイデアが詰まった「夢」をたくさん描きました。私は、「十勝をもっと面白くしたい、発展させたい」という参加者の熱気に触れ、大変心強く感じたところです。こうした共同作業は、十勝の明るい未来を志向する前向きな人たちのつながりを生み、深め、十勝・帯広のさらなる可能性を広げる貴重な機会になったと思います。ここから、新たな交流やプロジェクトが生まれ、十勝の新しい「しごと」の創出につながっていくものと期待しています。
「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」
幕末の藩士、吉田松陰の言葉です。成功への第一歩は夢を描くこと。諦めずに挑戦し、そしてやり抜くことが、希望の未来を切り拓くことにつながる。そのことを、この言葉は教えてくれます。
未来を前向きに捉えながら夢を語る大人たち。その大人たちの背中を見て育つ子どもたち。十勝・帯広は、熱く、面白い人がたくさんいる地域と感じて、さらに集まってくる人たち。そんな夢と希望にあふれ、夢かなう十勝・帯広を皆さんとともに創っていくことが、私の思い描く夢でもあります。

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

夢を描く

帯広市長 米沢 則寿

